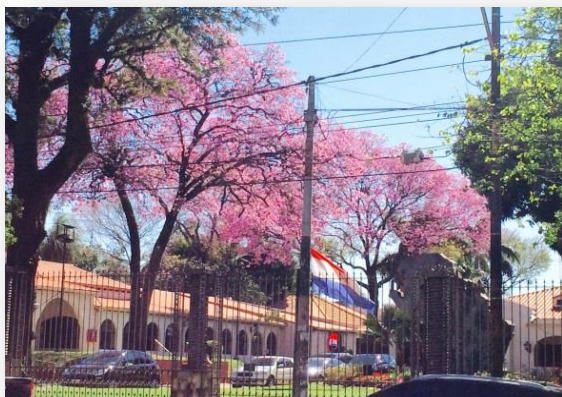




2016年日本人移住80周年記念イベント

『 移住 80 周年の秋を彩る音楽とスポーツの祭典 』



(写真上：今、大使館近隣で咲き誇るピンクのラパッチョ。
下：文化スポーツ活動の拠点となるパ日・人造りセンター)

昨年から始まった一連の 80 周年記念事業ですが、現在、メイン行事である9月9日の[慰霊祭・記念式典・祝賀会]の準備が進められています。他方、これまでに本【パラグアイ便り】で紹介してきたように、当国議会をはじめ様々な団体の主催によりすでに幾多の事業が実施されてきました。

7月、8月は当地の季節では秋から冬。灼熱地帯と思われがちなパラグアイですが、この期間は日本での秋晴れのような、ひんやりとしたさわやかな日々が続き、街中にラパッチョのピンクや白の花が咲き乱れ、スポーツ・芸術の秋にふさわしく音楽会やスポーツ・イベントが開催されます。

移住 80 周年関連でもこの華やいた季節にいくつかのイベントを行いました。前回の【パラグアイ便り】では日系人若手による創作演劇『歩む道』公演を報告しましたが、今回はこの一ヶ月間で実施された演奏会とスポーツ、それぞれ二つずつのイベントを紹介します。

【1】 和楽器ユニット『WASABI』による 80 周年記念演奏会



7月下旬にはアスンシオン市《パ日・人造りセンター》大劇場と郊外の運動・保養クラブ施設ホールの2カ所で、津軽三味線、尺八、箏、太鼓の4人の和楽器ユニット『WASABI』の演奏会が開催されました。

この公演は、国際協力基金の助成を得て 80 周年記念事業の一つとして当館主催で実現したもので、パラグアイの前後にコスタリカ、ウルグアイ、アルゼンチンでコンサートを開催しています。



(写真左：人造りセンター大観衆を魅了する『WASABI』演奏風景)

津軽三味線の吉田良一郎はじめ各和楽器奏者の卓越した演奏技法、劇場を圧倒する音の重なり、民謡の味わいとロックの迫力を重ねた斬新的な音楽、激しさの中での奏者の穏やかで静かな佇まい。このように日本の香り豊かで、しかも普遍的なメッセージ性を持つ実に清新な空間を演出し、両日で600人を超える満場の聴衆を魅了しました。

この演奏には筆者も圧倒されましたが、アスンシオン市長夫妻や外交団はじめパラグアイの聴衆も、この若々しく創造的な日本文化継承者に賛辞を惜しみませんでした。



(写真上：WASABI 一行の公邸訪問)

【2】パラグアイ外交官協会主催『移住 80 周年記念ガラ・コンサート』

8月2日には当国の外務省ホールで、パラグアイ外交官協会主催『移住80周年記念ガラ・コンサート』が150人の招待客を前に開催されました。セフェリーノ同協会会長(現特任事項担当大使で前駐韓国大使)、テルミ・マツオ外務次官(日系二世で前チリ大使)、本使の挨拶に続き、各イベントごとに紹介している当館作成80周年プロモーションビデオを上映し(なお本ビデオは当館HPにupされています)、引き続き国家警察交響楽団によるクラシックコンサートが開かれました。



(写真：当日の外務省正面玄関)

接受国の公的な団体が、自らのイニシアティブにより移住記念式典を主催することは他国では考えにくいことですが、これまで本欄で紹介してきた多くの行事と同様に本コンサートも日系社会が当国で築き上げてきた存在感を示しています。

また楽団長より参加聴衆に対し、「使用の管楽器・打楽器一式は2002年に日本政府から供与され、今でも新品同様だ」として各楽器の紹介と日本に対する謝意が示されました。これを聞いていた日系人幹部は、これまで知らなかったこの事実とこうした公式の席での紹介を大変うれしく、また誇らしく思ったと筆者に語りました。

またコンサートでアルパを独奏した若手プロ奏者は17歳の日系三世で主催者が招いたもの。彼は

これまで当国日系社会とは疎遠でしたが、このように80周年の一連の活動で予期しない繋がりが生まれてきています。



(写真：両国国旗を掲げた外務省ホールでの演奏会)

【3】移住 80 周年記念“ EKIDEN 10K (10 キロ駅伝)”大会



(写真上：EKIDEN10K 大会ポスターと翌日の新聞記事)

を務めるパ日商業会議所が主催し、主要企業の協賛を得て実現しました。スタート、櫂の引き継ぎ、ゴールは『パ日・人造りセンター』前に設置されたゲートで、仮装チームや愛犬ペットも加わり、11歳から83歳までの選手が次々と通り抜ける中、歓声の絶えない最後まで賑やかな大会でした。

8月7日、日曜日秋晴れの中、86 チームから 321 名が参加して『80 周年記念 EKIDEN-10K(10 キロ駅伝)大会』が開催されました。当地でもマラソンは盛んですがリレー方式はパラグアイで初めて、今回は4人一組で全長 10 キロを競います。

本大会を企画したのは現在の駐日パラグアイ大使のご子息で、当国の代表的自動車ディーラー社長マルセロ・トヨシ氏。彼が代表



本大会に参加した大多数の非日系の一般市民はこうした形式のレース経験はなく、大いに盛り上がっていましたが、《パラグアイ社会に開かれた移住記念祝典》という本80周年事業の基本理念にふさわしい大会でした。

(写真上：ラパッチョの花とゲート。下：日系仮装チームとゴールインする筆者と仲間たち。)

【4】移住80周年記念オープン親善ゴルフ大会

『 EKIDEN 10K (10キロ駅伝)大会 』の翌週の日曜日、もう一つのスポーツ・イベントとして市内アスンシオン・ゴルフクラブで、『移住80周年記念オープン親善ゴルフ大会』が開催されました。当初は日系人のみの全国大会が想定されていましたが、日系ゴルフ協会白沢会長(なお、同氏はパラグアイごま生産のパイオニアで【第9回パラグアイ便り】で氏の業績を紹介しています)の企画で、パラグアイ社会に開かれた、パラグアイ社会とともに楽しむ祭典という理念の下、日系人・非日系人ほぼ同数の参加者計120人という大規模なゴルフ大会となりました。



(写真上：開会式で挨拶する白沢会長。左手はカルロス・フランコと本使)



(写真：ラパッチョに囲まれた大会当日のコース風景)

当日始球式を行ったのは、90年代に日本ツアーで5度優勝して有名な当国プロのカルロス・フランコ。彼は現在も米国シニアツアーで活躍していますが、彼を貧しいキャディー時代から物心ともに支援して日本ツアーに送り込んだのが当地の日系社会でした。ゴルフで成功し、彼の名を冠したゴルフコースをアスンシオン近郊で経営するようになっていますが、今でも当時の諸先輩である日系人に敬意をいただき、折々に親しい付き合いを欠かすことはありません。



(写真左：大会当日の裏方として活躍する日系人若手グループ)

当日はゴルフ参加者のみならず日系人の若手グループもコースやクラブハウスで裏方として活躍、途中で軽食を振る舞い、ゴミを出さないキャンペーンをし、懇親会では着物で表彰式の手伝いをするなど、本80周年の理念でもある若い世代の参画をここでも実践しました。



(写真：翌日の新聞記事2紙と懇親会の様子)

【終わりに】

以上、秋晴れの続くこの一ヶ月間に実施された音楽・スポーツ分野における日本人移住80周年記念事業を紹介しましたが、9月には、メイン行事となる[慰霊祭、記念式典、祝賀会]が日本からの来賓も参加して開催されます。また10月には参加者数万人規模の[日本祭り]も予定されており、賑やかな80周年はまだまだ終わりそうにありません。

(上田善久 大使館 2016年8月)